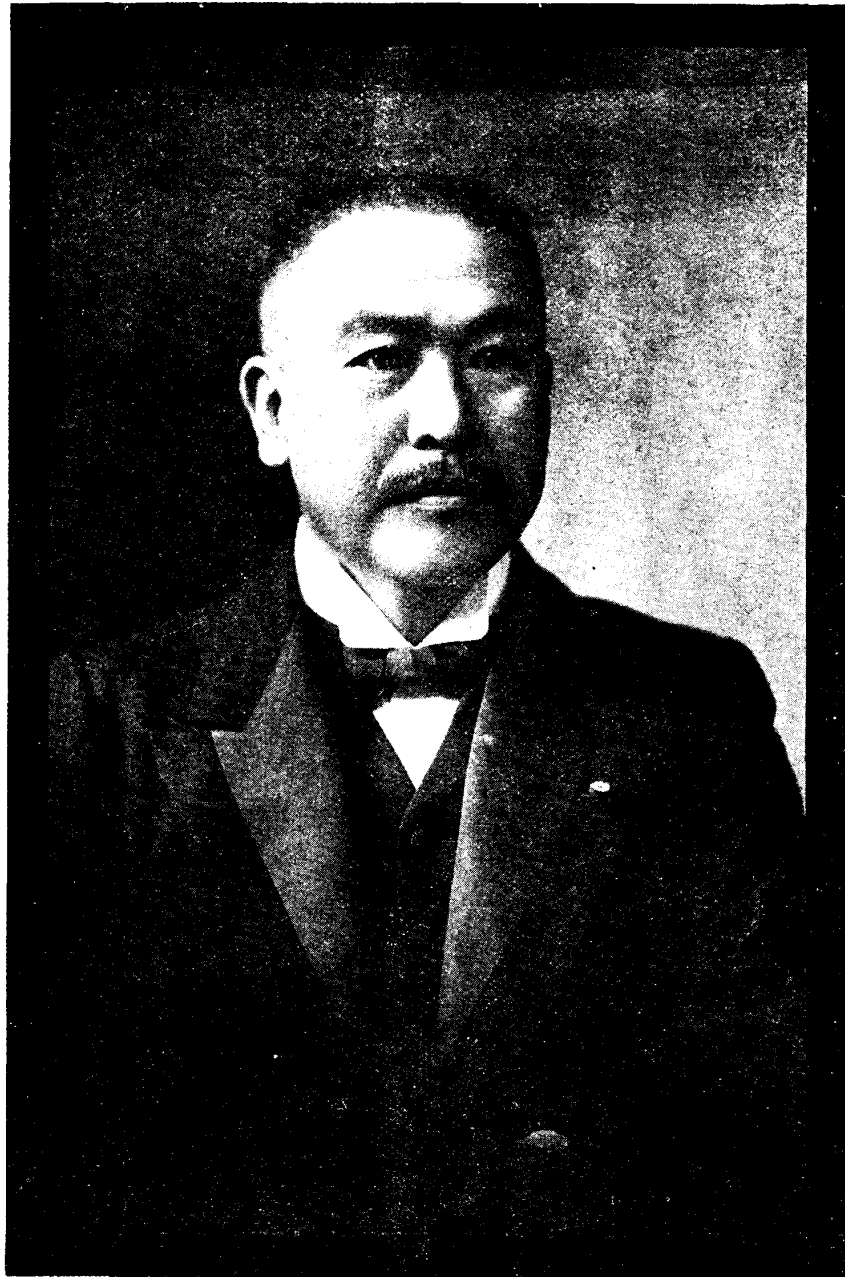


故 押 川 則 吉 君



故押川則吉君の傳

製鐵所長官貴族院議員從三位勳一等押川則吉君は鹿兒島藩士押川乙五郎の長男文久二年十二月十九日を以て鹿兒島市加治屋町に生る資性英敏剛毅幼にして學業優秀夙に鄉黨に令名あり明治十三年七月駒場農學校農學科同十六年三月同農藝化學科を卒業し農學士及農藝化學士の稱號を受く十六年三月農商務省御用掛に出仕し其後新潟縣屬より農商務屬となり巴里萬國大博覽會事務官補として佛國に渡航し引續き二ヶ年間歐洲に留まりて農業經濟の調査に従ひ大に得る所あり歸朝後農商務技師に任し日清戰爭後樺山總督に従ひて臺灣に赴き總督府民政局事務官を以て殖産部長の職を奉し次て山形、大分、長野、岩手、熊本等の各府縣知事に歴任し四十一年七月農商務次官となり四十四年在官の儘貴族院議員に任せらる大正元年十二月内務次官に轉し同二年二月一日官を辭し同三年七月製鐵所長官に任し特に親任官の待遇を賜ふ同七年二月十八日薨去す。